平成２８年度 山形のみちづくり評議会　（第２回）
議事要旨

1. 日時
　平成２９年３月８日（水）14:00～16:00

2. 出席委員
　柴田会長、貝山委員、津藤委員、宮原委員、池田委員、小山委員、深瀬委員、廣瀬委員、上坂委員

3. 議事
(1) 「やまがた道の駅ビジョン 2020」の取組み状況について〔報告〕
(2) 国道 347 号鍋越峠における通年通行の取組み状況について〔報告〕
(3) 次期道路中期計画の策定に向けて〔協議〕

4. 議事概要
(1) 「やまがた道の駅ビジョン 2020」の取組み状況について
○「やまがた道の駅ビジョン 2020」の概要説明、平成 28 年度の現況報告を行い、主に以下のような意見交換がなされた。

・ 道の駅ビジョンを育てていくという意識が重要である。市町村の考え方、多様性を認め、柔軟性を持つことが大切である。
・ 道の駅の設置を非常に高いハードルと捉えている市町村もあるが、周辺地域と一体となって全体としてどのように考えるのか、ネットワーク化した道の駅の設置の可能性などを考えていく必要がある。

(2) 新たな道路中期計画策定に向けて
○新たな道路中期計画策定に向け、市町村道路担当課・県土木ＯＢアンケートの結果について報告し、主に以下のような意見交換がなされた。

・ このような委員会の場で議論されている内容をきちんと一般の方に報告することが重要であり、例えば今回プロの視点から出された道路の老朽化対策、維持管理などの重要性を一般の方に伝える事にも繋がるものと考えられる。
・ 市町村を活性化していく上で、県の考えをきちんとフィードバックして、市町村の方々と意見交換を行うことが重要である。また、道路担当課だけでなく、企画やその他の担当課の意見も重要である。

5. 山形のみちづくり評議会（第２回）における主な意見

5-1 「やまがた道の駅ビジョン 2020」の取組み状況について

(1) 取組み状況に対する意見

・ 最上地域の道の駅は現在１箇所のみであるが、地域全体として連携・ネットワーク化し、道の駅の整備を目指すことに取り組む必要がある。
・ 山形芸工大と連携した道の駅の観光案内所の統一デザインはブランド化戦略として良い取組みである。道の駅は県外の人も訪れる場所なので、是非、全国の道の駅への波及も考えてほしい。
・ 道の駅の RV パークなどは、入浴施設との連携など、利用者のニーズに応えるのが重要である。交通の不便な場所でもメリットがあればお客さんは訪れる。

(2) 今後の方向性に関する意見

・ 地域住民が集い、地域住民にもメリットのある道の駅である必要がある。地方の郵便局などは閉鎖されてしまう状況にもあり、道の駅にこのような施設を設け、小さな拠点的な道の駅が過疎対策に繋がってくると良い。
・ ビジョンで掲げている「山形らしい道の駅」とはどのようなものか、関係者が同じ認識をしておく必要がある。ちょっとした体験、誰もが参加できる道の駅があれば、地域に根ざした「山形らしい道の駅」になってくるのではないか。

5-2 新たな道路中期計画策定に向けて

(1) アンケート結果について

・ 高速道路整備が求められている結果となったが、ネットワークが繋がってきたときに、複数の経路から選択できるようになるので、情報提供のあり方も重要になってくると考えられる。
・ 地域の連携、町内の協力が少なく冬期の除雪問題が顕著になっているという点は、実感している。冬期の除雪対策は重要な視点である。
・ 高速道路の整備が遅れている地域は、地域の成長のため高速道路が欲しいとの意見になっているものと考えられる。ただし、一般の方の意見ではないので、一般の方には改めて意見を聞く必要がある。
・ 一般の方からは生活道路に関する意見や、堆雪幅を確保する道路整備など、身近な意見が出てくることが考えられる。

(2) 新たな道路中期計画を検討していく際の留意点について

・ 今回は道路行政に携わっている人の意見なので、一般の方からは道路の老朽化対策や維持管理などの意見は出てこないと考えられ、このような部分を市民とどのように共有していくかが鍵ではないか。
・ 現在の中期計画の施策に含まれていない「道の駅」「観光」「ネットワークを賢く使う」「ストック効果」など、次期中期計画の検討において重要な視点であると考えられる。

以上